

# スマイル タウン

2019  
**5・6**  
月 **第303号**

**ひの社会教育センター** は、市民のみなさんの“やりたい”を実現し、「豊かなくらし」を応援する施設として、1969年に日野市と(財)社会教育協会が協定書に基づいて設置しました。  
今月もセンターで生まれるたくさんの学びの様子をお届けします。



- 「つながり」 地域指導 和太鼓・七生福祉園
- 教室探訪記 「書道」木曜午前10時～12時
- 「ひと」 藤井悦子さん 福島チャリティーコンサート主催
- モグモグレシピ 大人気メニュー「絶品春巻き」
- センターからのご案内



# 新館タイムズ

## 『回想―引越しプロジェクト』

平成31年3月31日、50年間にわたりご利用いただいた、ひの社会教育センター旧館は、その役割を終えました。旧館の運用終了にさかのぼること1か月前ころから、「引越し作業」が本格化しました。館内の備品移動や、システムの変更、不要物の廃棄まであらゆる移転作業のほぼすべてを「自前で行う」プロジェクトでした。

新館は、ご存知のようにコンパクトなサイズになったため、必要なものを厳選し、あとの物は処分しなければなりません。書類の中には協会開設当初の昭和初期の決算書なども含まれており、紙類だけでも4トトラック5杯分以上の量でした。

想像を越えた膨大な作業を、職員を中心に挑もうとしていました。やはり追い付きませんでした。そんなとき、力と時間をボランティアで貸してくれた多くの「仲間たち」がいました。

センター開設当初に参加していた方々は、数十年ぶりに集い、過去の写真と思い出にひたりながら写真の整理や備品の清掃。日ごろ子どもたちと活動している大学生や社会人のリーダーは、休みの日を使って力仕事を。子どもたちが自然学校でお世話になっている長野の宿からも、わざわざ作業のために2日間も出てきて夜遅くまで力を注いでいただいた方までいらっしやいました。

作業終盤には、昔センターに通っていた今は建設会社を営む方が、トラック2台と

従業員の方3名まで派遣していただき、大量の廃棄品やリサイクル品をまとめて持って行っていただき、廃棄料までご負担いただきました。



旧館の最後に際し、これらのシーンはまさに「市民の館」の象徴的な時間でした。関係者みなさんの努力によって、当初490万円近くの引越し関連予算が、100万円程度で収まったのです。みなさんの寄付によって新館での運用が始まった新しい社会教育センターですが、旧館と同じくあるいはそれ以上に愛される、そんな施設にみなさんとまっただ育っていきたくと願っています。ちなみに、「新館になったらなんか行きにくくなっちゃったな」という声を、特に昔からの利用者の方から耳にしますが、ご安心ください。中の備品類はほぼ全てが旧館からの引きつぎですから実は大きく変わりません！みなさんのお越しをまたお待ちしております。

日野社会教育センターが市より受託運営している、百草の子育て支援カフェ『モグモグ』の大人気レシピをご紹介します！ご家庭でもチャレンジしてみてくださいね🍴

### 第1回の今回は、モグモグ史上、不動の人気NO1メニュー!! 『和子さんの絶品春巻き』

- ①フライパンに油を熱し、1cmに切った豚バラ肉をほぐすように炒める。
- ②すべての野菜をいれて、しんなりするまで炒める。
- ③調味料☆をフライパンに入れて、ひとまぜしてから、春雨を入れて手早くまぜる。
- ④具をバットにひろげ、冷ましてから春巻きの皮で巻く。
- ⑤170度の油でカラッと揚げる。  
※油の温度が低いとカラッとしないので注意!



#### 材料

- 豚バラ肉 200g (下味:白ワインとしょうゆ)
- 春巻きの皮 10枚
- 生シタケ(スライス) 6枚
- 玉ねぎ(スライス) 小2個
- にら(3cmカット) 1本
- にんじん(せんぎり) 1本
- 春雨(ゆでて3cmカット)
- たけのこ(せんぎり) 1袋
- しょうが(スライス) 1かけ
- 調味料
- ☆しょうゆ 大さじ1
- 酒 大さじ1
- ウェイパー 大さじ1
- さとう 小1

#### ★できあがり★

『モグモグ』では日替わりランチ¥550、こどもランチ¥150で提供しています。コーヒーなどのドリンクも¥100~¥130と、とってもリーズナブル🍴



### 賛助会へのご協力 ありがとうございます

★年会費(順不同・敬称略 2/1~3/31)

- ①個人会員 1口 1,000円  
池上洋通 20口
- ②団体会員 1口 5,000円  
日本レスリング協会 村本 2口

※日野社会教育センターへの支援と事業の普及、開かれた運営と経営の安定をはかるため皆様のご加入をお願いします。

### 新館建設寄付者ご芳名 2/1~3/31 ご寄付いただいた方

※都合によりお載せしていない方もおられます。

神田耕治 三線教室 小俣彰男 山崎洋輔

小寺隆幸・美和 只木貞吉 蜂屋弘之・道恵

横川健二 鈴木あけの

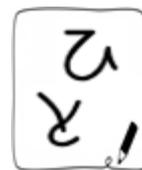
(順不同・敬称略)



引越し前の旧館窓口で、ミニバザーの募金箱へ、たくさんの募金をありがとう

現在の募金総額 3/31 現在  
387名+募金箱

¥23,942,439-



毎年3月11日前後に、ひの社会教育センターを会場にしておこなわれている「福島チャリティーコンサート」。そのイベントを主催している藤井悦子(ふじい えつこ)さんにインタビューしました。

東日本大震災から8年、この間ずっと継続してチャリティーイベントを催されていること、その実践のキッカケについて。

「私は、平山台小地区で、ボランティア活動に平成20年から参加。それは、畑、バラ園、地域の歴史、音楽会などを企画実践していました。そこへ、平成23年3月11日の大地震が起き、旧平山台小で予定していた音楽会は、中止。やむを得ないことでしたが、「こういう時こそ、何かできることはないか?」と考えました。ヨガなどで、お世話になっていた社会教育センターと一緒にならできるかも、と思い、センターにメールを送り、呼びかけたことが始まりでした。

イベント実現までの、ひとや団体とのつながりや準備について。

「私は、それまでに何度か、音楽会を企画してきましたが、その時3月半ばの時点で、演奏活動が「盲粛」と言われ、仕事がなくなっているのではないかと、他の人も何かをしたい、と思ってるのではないかと?」と思い、友人や仲間に行実委員の募集を掛けました。日程は、1ヶ月後の4月24日に設定し、準備スタート。ネットで、出演者を探しまくって、「お話付きクラシック」ライアー演奏「朗読」日本の唄の4部構成に。センターには、会場の提供と広報の協力をお願いしました。

実際に出演者の演奏を聴いていないのに、出演依頼をするのは、冒険でした。しかも、報酬が原則として「無し」。それでも、いままでも演奏が期待を裏切られたことはありませんでした。その他にも、地域の皆さんの支援があったことも大きな力でした。センターのピアノ調律、切り花を提供してくれた市内の花屋さん、自家製せんべいを提供してくれたおせんべい屋さん、チラシ印刷をやってくれた教材屋さんなど、これら人々と繋がって来られたことが、やってくる、良かったことと思います。

(取材・寺田)



▲主催の藤井悦子さん

▼会の様子。  
お話や演奏に耳をかたむけます。



## 趣味を始めるきっかけは人それぞれ。

会員さんに一言インタビュー

家業の関係で、のし紙に名前を書くことがあり、きれいに書きたいと思ったことがきっかけ、と話されたのは、約三十年と一番長く続けていらつしやる山下久美子(やましたくみこ)さん。大きな作品展にも何度も挑戦してきましたが、大きな紙に一つの作品を書きあげるのは大変な労力で、没頭してこられてきたことは幸せなこと、今は、無理せず、ゆっくりペースが丁度良いですとお話くださいました。

定年を迎えたとき、何か趣味を持とう、と考えた田島義彦(たじまよしひこ)さん。きっかけは、なんともユニークで、当時、奥様が見ていた韓流ドラマ「時代劇がテーマのドラマは、びよぶや、ふすまに漢字が書かれ、漢字はかざりになる」ことに気付き、面白さを感じたそうです。

10年続けてきた中で、作品展にも出展し、日本の物だけでなく、韓国や中国の書道展にも足をほこびます。

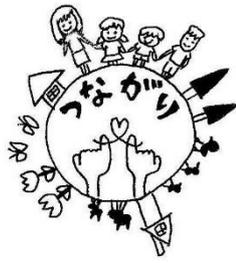
もともと字を書くことが好きで、家の中で一人で楽しめ、何か打ち込めることをさがしていたという手塚澄子(てづかすみこ)さんは3年前から続けています。

一人で集中し、一生懸命取り組んでいるときは、日々の様々なことを忘れられ、そういう時間が持てることは幸せだと感じるとのこと。今は、上達し昇級することを楽しみます、と笑顔でお話いただきました。

(取材・野口)



# スタートしました！ これからもよろしくお願ひしま



社会教育とは『学んだことを、次につなげること』  
 根底にあるそのことを大切に、地域で実を結んできた実践活動の数々を  
 紹介いたします。

## みんなで響かせる太鼓の音色』

日野市程久保にある七生(ななお)福祉園。  
 利用者の方の自立や生活を支援する入所型の  
 障害者支援施設です。

こちらの施設では、出張指導の依頼を受け、  
 ひの社会教育センターの職員が、施設で生活す  
 る利用者さんを対象にした体操指導やプール  
 指導、また専門家の方と協力して音楽療法など  
 を行っていた時期がありました。そのつながりか  
 ら、センターからの担当者もサポートとして加  
 わり、**和太鼓奏者・菅原光朗(すがわらみつあ  
 き)さんが太鼓の指導**をしています。今回は、  
 菅原さんの指導の日に、お話を伺いました。

菅原さんはテレビ番組で多くのアーティストと  
 も共演を果たし、プロで活躍する奏者。指導が  
 始まったのは、さかのぼること25年以上前だ  
 と。  
 こんなに長く続けていらつしやる理由を聞く  
 と、「ここの指導は、生活のひとつ。みんなと一  
 緒にやるもんだと思っている。待っていてくれ  
 からね。」と笑顔の菅原さん。



▲菅原さんと、利用者さんの一人。

その日の参加者は5名でしたが、はつきり  
 と意思疎通ができる人もいれば、言葉が発  
 しない人もいます。しかし、ひとたび、先生が  
 太鼓を打ち始めると、皆一様に体をゆら  
 し、バチを動かし、太鼓を打ち始めます。  
 リズムがびたつと合うことはなかなか難し  
 いですが、太鼓の音色と響きが体の中にこた  
 まして、みんなが一体になっているように感  
 じます。

利用者さんの太鼓の演奏を、七生福祉園  
 の夏まつりや園まつりでも披露。

また、先生の**菅原流和太鼓の発表会**  
 に、利用者さんが出演することもあるそ  
 うです。

(取材・野口)

## 小さなきっかけから、まずはスター



▲表紙の「令和」とあわせ、「昭和」「平成」の文字を先生と、  
 受講生の武藤さんも書いてくださいました。



書道教室(木曜10時〜12時)にお邪魔して、  
 受講の方にお話をうかがいました。

「おとなの学び」プログラムには、文化・アート・音楽・  
 語学・健康・ダンス等、約70種類のクラスがあります。  
 はじめての方も経験者の方も、いつからでも、どこから  
 でもご参加いただけます。

講師 **佐藤 勢津子(さとうせつこ)先生(現代書道社師範)**  
**稲垣 眞弓(いながきまゆみ)先生(現代書道社師範)**

一ヶ月に一度、受講の皆さんに渡される「書譜」をお手本に、  
 古典の臨書(原本に忠実に書いていくこと)をします。ご自分で  
 選んだものを作品として書き上げます。  
 先生からの講評・添削を受け上達を実感。昇級試験にも挑  
 戦します。